

産新 2006-12-15 (金)

バイオディーゼル燃料

旭川に本格プラント

【旭川】天ぷら油などの廃食用油を回収し、トラック燃料に転換するバイオディーゼル燃料（BDF）の本格プラントが、旭川市東鷹栖でこのほど着工した。氷点下四五度でも使える耐寒製品を開発した。ペカルト化成（旭川、篠原泰則社長）が国の補助を受けて手掛ける。月産約七万リットルの能力を誇り、廃食用油対象では国内でも最大級という。

ペカルト化成が着工

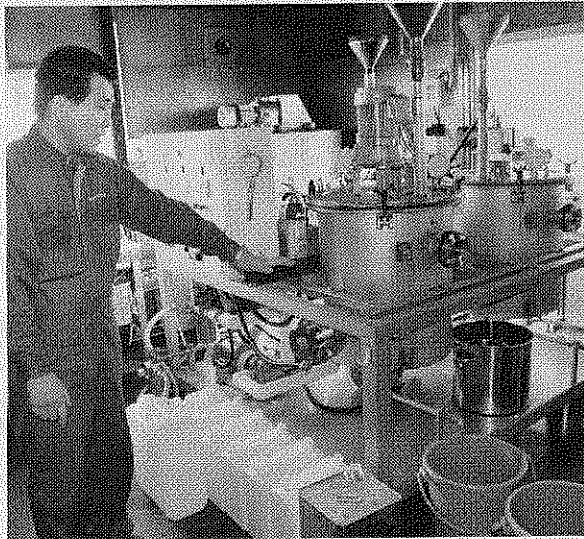
経済産業省が十一月に認定した新エネルギー事業者支援対策で、全国五十四件（道内四件）の一つ。補助額は三千万円。同社は廃食用油を回収してせっけん製造を長年手掛け、五年前にBDFの実験プラントを設けた。今春、氷点下四五度でも固まらず、真冬の旭川でも軽油の代わりに使えるBDFを開発した。

新工場は鉄骨平屋二百三十平方メートルで、二千二百平方メートルの敷地に建設。精製装置のほか、品質管理のための自動分析器を備える。事業費は一億二千万円、稼働は来年三月の予定だ。

原料となる廃食用油は、食品工場や飲食店から収集するほか、旭川市からモテル町内会約三千戸分の回収を受託。同市は新年度から回収対象を全市に広げ、カソリンスタンドなどを収集拠点とする新方式を検討している。

篠原社長は「製造能力は試験プラントの約三十倍で、100%軽油の代替となる燃料を量産する態勢が整った。回収システムを構築し、廃食用油リサイクルを進めたい」と話している。

廃食用油対象、国内で最大級



BDFの試験プラントと篠原社長